

講義名	国際経済論/貿易論			授業形態	
担当教員	竹内 信行	開講期・曜日・時限	後期 木曜日 3時限		
		単位数	2	履修開始年次	2年生

主題と概要

経済のグローバル化が進んでいる中、私たちの生活は「国際経済」と切り離して考えることができません。例えば、身の回りの商品の多くが輸入品であったり、急激な円安によって海外ブランド商品が買いつらくなったり、というように私たちの身のまわりには「国際経済」に関する現象が数多く潜んでいます。本講義では、こうした現象を正しく理解するために「なぜ貿易をするのか?」「貿易黒字・赤字の意味とは?」「貿易政策の効果とは?」といった国際経済学の基礎を解説していきます。取り扱う内容の多くはミクロ経済学やマクロ経済学の知識を基にしており複雑で難解な面もありますが、丁寧な解説を心がけ、楽しく学んでいることを目標にします。

到達目標

国際経済学の基本的な知識を習得し、以下の諸点ができるようにすることを目指します

- (1) 私たちの経済がどのように国際的な経済活動とつながっているのかを知る
- (2) 貿易黒字 / 赤字の意味を正しく理解できるようになる
- (3) 比較優位の考え方を自分で説明できるようになる
- (4) 貿易政策の効果について説明できるようになる
- (5) 貿易と経済発展の関係について理解する

提出課題

原則、毎講義後に

- ・学習内容に関する確認問題
- ・講義で学んだことや感想・質問に関する自由記述

の2種類の課題を出題します(クリッカーもしくは小レポートとして実施する予定です)

課題(レポートや小テスト等)に対するフィードバックの方法

毎回課される課題のでき具合や回収した感想・質問は、講義内で講評したり授業計画の修正の参考にしたりします。また、課題として出題した確認問題に関してはその解答・解説を公開します

評価の基準

- ・定期試験: 60 %
- ・平常点: 40 % (毎回の課題の提出状況や、その取り組み具合などで評価)

履修にあたっての注意・助言他

- ・「バツと聞いて分かる」というよりは「じっくり考えてから分かる」ことが多い学問です。そのため、講義内容の理解には「根気」と「努力」が必要になります
- ・受講にあたり「経済学入門」もしくは「ミクロ経済学」と「マクロ経済学」を既習であること、より理解が深まります。しかし、関連する事項は適宜、解説をしますので、これらの科目を既習であることは本講義受講の必須条件ではありません
- ・講義の内容上、数式や図表を用いることがあります。それにともなって必要となる数学については適宜、説明を行います
- ・毎回の講義は、連続ドラマのようにそれまでの講義内容を前提とした「続き物」になっています。そのため、講義内容が途中で分からなくなると、講義自体がつまらなく時間になってしまいます。大学の講義は皆さんにとって初めて聞く内容が大半であり、最初から分からないのは当たり前です。恥ずかしがらずに積極的に質問をし、疑問点は早めに解消していきましょう

教科書

.使用しない。					
---------	--	--	--	--	--

参考図書

.国際経済学をつかむ 第2版.	石川城太, 椋寛, 菊地徹	有斐閣	2420	9784641177192
.ゼミナール 国際経済入門 改訂3版.	伊藤元暉	日本経済新聞社	3520	9784532132880
.基礎コース 国際経済学.	澤田康幸	新世社	2860	9784883840618

その他

ハンドアウトを配布するため、教科書は必要ありません。しかしハンドアウトだけでは不安を感じる方は、上記の参考図書の中から自分にあったものを参照してください

授業計画

- 第1回 国際経済と日本 イントロダクション
- 第2回 マクロ経済学入門 (1) 経済循環とマクロ経済
- 第3回 マクロ経済学入門 (2) 三商等価の原則とISバランス
- 第4回 貿易黒字 / 赤字のさまざまな見方
- 第5回 貿易収支と為替レート・物価・交易条件
- 第6回 国際貿易論入門 (1) 何を輸出して、何を輸入するのか? 絶対優位説と比較優位説
- 第7回 国際貿易論入門 (2) 比較優位説(続き)
- 第8回 国際貿易論入門 (3) 比較優位説の応用
- 第9回 貿易政策入門 (1) さまざまな貿易政策
- 第10回 貿易政策入門 (2) 分析のための準備 (需要曲線と消費者余剰)
- 第11回 貿易政策入門 (3) 分析のための準備 (供給曲線と生産者余剰)
- 第12回 貿易政策入門 (4) 関税と輸入割当の効果
- 第13回 貿易政策入門 (5) 生産補助金の効果
- 第14回 自由貿易と保護貿易
- 第15回 貿易と経済発展

講義予定の消化より受講生の理解の方を優先するため、授業計画どおりに進まない場合もあります。あらかじめご了承ください

授業形態(アクティブ・ラーニング)

ア:PBL(課題解決型学習)	イ:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)
ウ:ディスカッション、ディベート	エ:グループワーク
オ:プレゼンテーション	カ:実習、フィールドワーク
キ:その他(ＡＬ型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合)	

準備学修(予習・復習等)の具体的な内容及びそれに必要な時間

下記を目安に復習を中心にして準備学修に取り組んでください。

- ・講義内で使用したハンドアウトを用いて学修内容を復習する(1.5時間程度)
- ・毎講義後に課される確認問題に取り組む(1時間程度)
- ・講義で学んだこと、疑問事項などをまとめる(0.5時間程度)
- ・確認問題の解説を確認する(1時間程度)

とくに講義等を通して人から教えてもらっただけでは「分かった気」になってしまい、いざという時に学習した事を活かすことができません。内容をしっかり理解するには「その内容を他の人に説明できるようにする」ことを目指して復習することが大切です。

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

本授業での学修は、学生が卒業時に共通して身につけておくべき資質・能力のうち、「知識を効果に転換することができる。論理的思考力を持った人材」の養成を目指すものである。特に「経済学部の科目として『社会』に関するこれまでの学問的成果の基礎を身に付け、現代社会の諸問題を幅広い観点から考察できるようにする」「世の中の動きを理解し、現代社会の経済問題に関して解決策を考えるための基礎知識を習得する」ことを目指している。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

使用した教材や課題の解答・解説等は適宜、RYUKA Portal で公開していきます(動画資料の場合はYouTubeを利用する予定です)。講義の復習などに活用してください

実務経験の有無及び活用

備考